



DyDo IR説明会 2022 ～ダイドーグループの本質に触れる～ 第1部資料

ダイドーグループのマテリアリティへの取り組み

ダイドーグループホールディングス株式会社
代表取締役社長 高松 富也

2022年12月17日

01 ダイドーグループの理念体系

P.03

02 具体的な取り組み事例

P.12

本資料に記載されている、当社グループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の業績に関する見通しであり、これらは当社において現時点で入手可能な情報による当社経営陣の判断および仮定に基づいています。従って、実際の業績は、不確定要素や経済情勢その他リスク要因により、大きく異なる可能性があります。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなさるようお願いいたします。



01 ダイドーグループの理念体系

共存共栄とチャレンジを謳う理念のもと、「こころとからだに、おいしいものを。」皆様にお届けする

グループ理念



人と、社会と、共に喜び、共に榮える。

その実現のためにDyDoグループは、ダイナミックにチャレンジを続ける。

グループビジョン

- | | |
|---------------------|--|
| DyDoはお客様と共に。 | 高い品質にいつもサプライズを添えて、「オンリーDyDo」のおいしさ与健康をお客様にお届けします。 |
| DyDoは社会と共に。 | グループ全体で生み出す製品・企業活動「オールDyDo」が、豊かで元気な社会づくりに貢献します。 |
| DyDoは次代と共に。 | 国境も既存の枠組みも越えて、次代に向けて「DyDoスタンダード」を創造します。 |
| DyDoは人と共に。 | 飽くなき「DyDoチャレンジ」で、DyDoグループに関わるすべての人の幸せを実現します。 |

グループスローガン

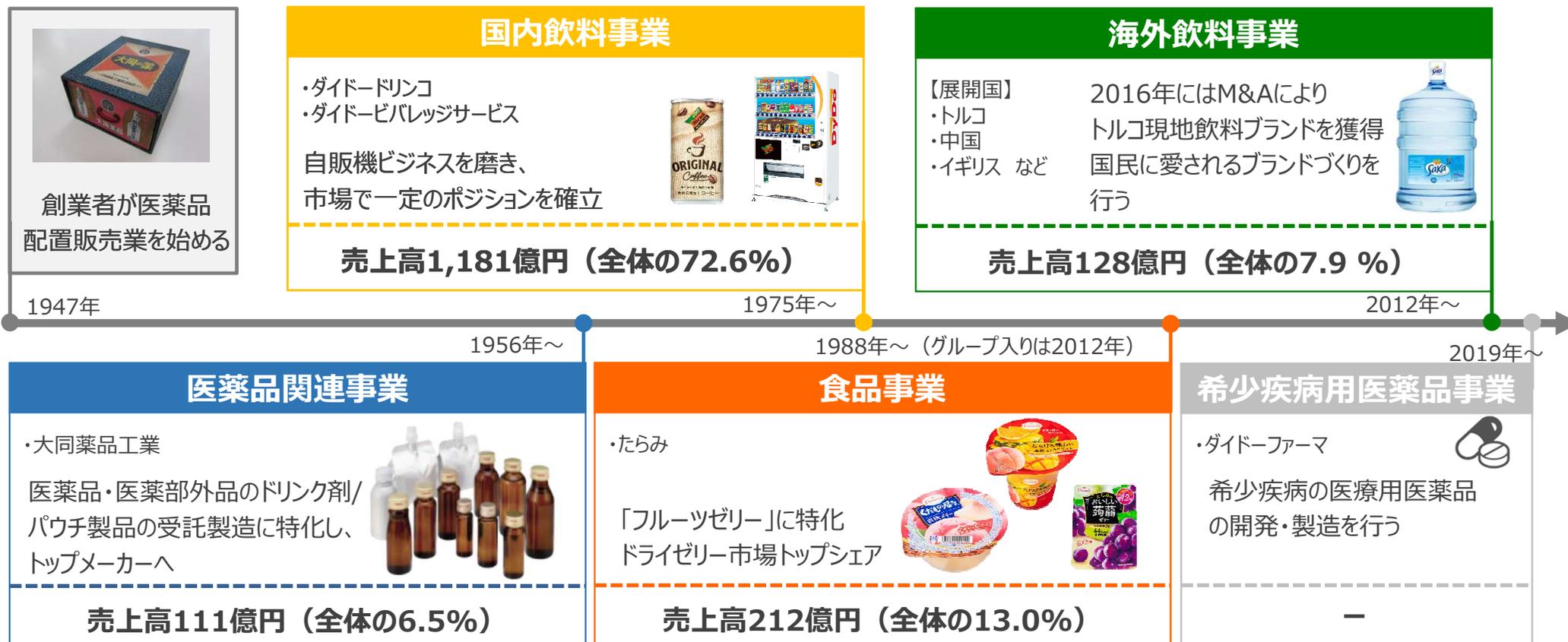
こころとからだに、
おいしいものを。



ダイドーグループのこれまでの事業の変遷



祖業から一貫して「お客様の求めるものをお客様に身近なところでお届けする」ビジネスを展開



*外部顧客に対する売上高 (2021年度実績)

社会価値、環境価値、経済価値を高め、持続的成長を実現する

社会価値 世界中の人々が楽しく健やかに暮らすことのできる持続可能な社会の実現に貢献する

世界中の人々の楽しく健やかな暮らしを クリエイトするDyDoグループへ

環境価値 2050年までに自販機ビジネスにおける
カーボンニュートラルをめざす
(自社排出+自販機の電力消費による排出※1)

経済価値 中長期的な企業価値向上の実現をめざす

2030年までに
国内飲料事業
自社排出 (Scope1・Scope2) ※2 **カーボンニュートラル**
国内主要グループ会社※3
自社排出量 (Scope1・Scope2) **50%削減**※4 (2020年比)

2030年1月期 連結ROIC

8%以上

※1 ダイダービバレッジサービスによるオペレーション自販機のCO₂排出量 (Scope3)

※2 ダイードリンク、ダイダービバレッジサービス、ダイダービジネスサービス

※3 ダイードリンク、ダイダービバレッジサービス、ダイダービジネスサービス、
大同薬品工業、たらみ

※4 売上高原単位 (対象グループ会社の排出量合計÷売上高合計) にて算出)

※投下資本はセグメントへの投下分

世界中の人々が楽しく健やかに暮らすことのできる持続可能な社会の実現に貢献する

世界中の人々の楽しく健やかな暮らしを クリエイトするDyDoグループへ

DyDoはお客様と共に。



お客様の健康をつくります

おいしさへの飽くなき探求心のもと、
世界中のお客様の健康や生活の質向上に
貢献する商品・サービスをお届けします。

DyDoは社会と共に。



社会変革をリードします

持続可能な社会のために、
常識に捉われず、新たな視点から
社会変革を自らリードします。

DyDoは次代と共に。



次代に向けて新たな価値を生み出します

革新的なテクノロジーを活用し、
すべてのステークホルダーに
ワクワクや驚きといった体験を提供します。

DyDoは人と共に。



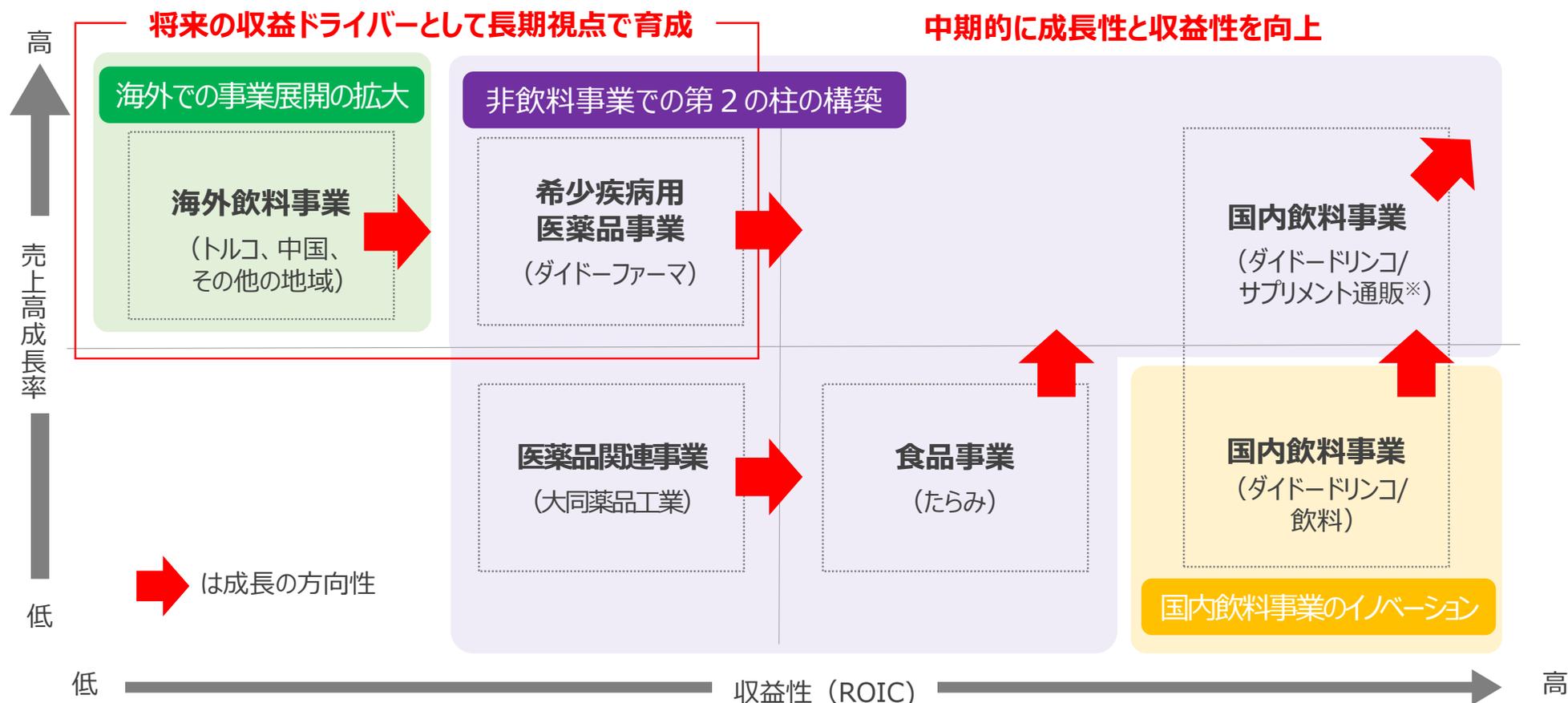
人と人のつながりをつくります

グループ内外と柔軟に連携し、
多様な価値観や能力を尊重しながら
新たな共存共栄を推進します。

2050年までに自販機ビジネスにおけるカーボンニュートラルをめざす（自社排出+自販機の電力消費による排出^{※1}）



中長期的な企業価値向上の実現をめざし、「国内飲料事業のイノベーション」「海外での事業展開の拡大」「非飲料事業での第2の柱の構築」の3つの基本方針を定め、事業ポートフォリオ戦略を推進



※ サプリメント通販は、ダイドドリンクが育成中の事業のため、会計上の事業セグメントは国内飲料事業に含まれます。

2030年のありたい姿として、2019年1月に策定

世界中の人々の楽しく健やかな暮らしを クリエイトするDyDoグループへ

国内飲料事業

自販機市場において、絶え間ない
挑戦と共創で新しい価値を提供し、
トップランナーとして業界をリードし続けます

海外飲料事業

世界中の人々の健康を支える
グローバルブランドを生み出します

こころとからだに、
おいしいものを。



医薬品関連事業

「健康・美容」分野での
製造受託企業NO.1になります

希少疾病用医薬品事業

治療選択肢のない
希少疾病に苦しむ患者様へ
治療薬を提供します

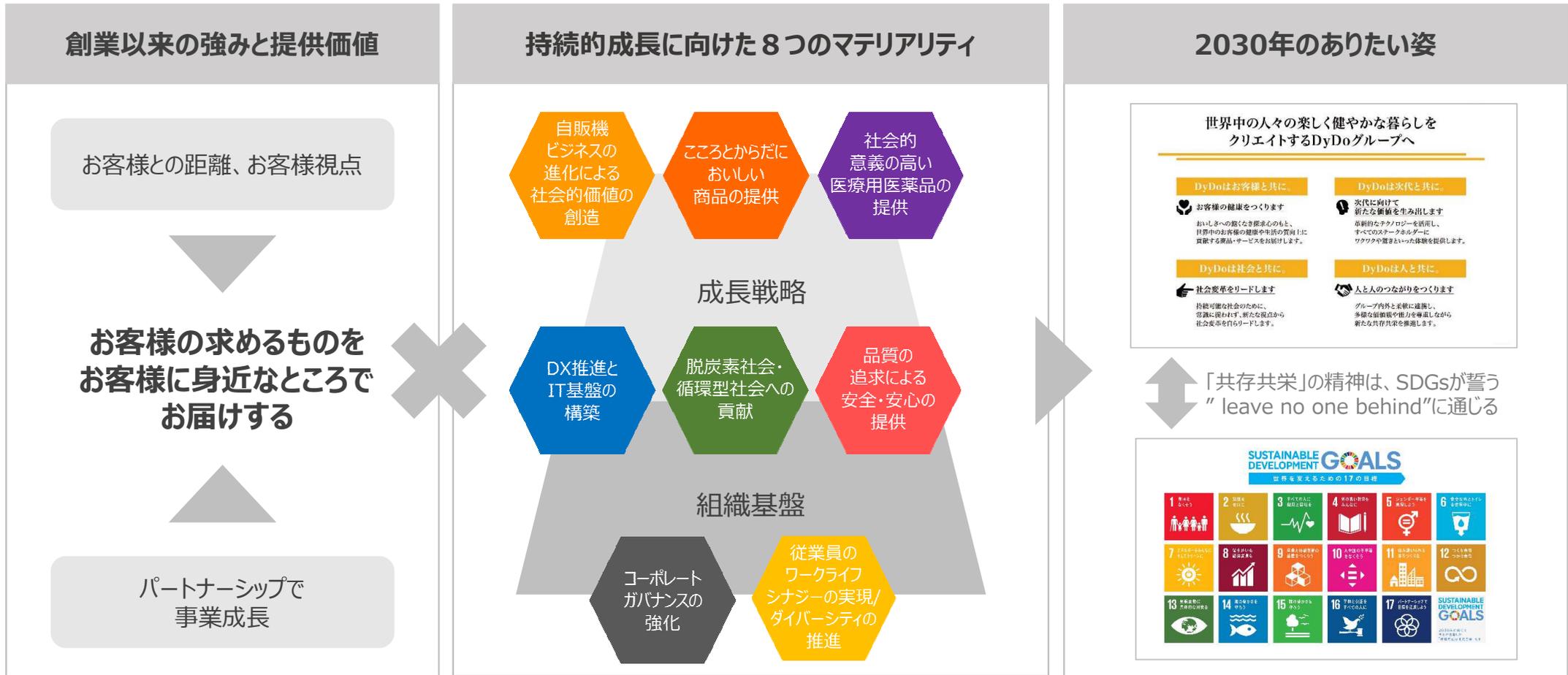
食品事業

フルーツとゼリーを通して
「おいしさ」と「健康」を追求し、
すべての人々を幸せにします

2030年のありたい姿の実現に向けたマテリアリティの特定



グループ理念 人と、社会と、共に喜び、共に栄える。その実現のためにDyDoグループは、ダイナミックにチャレンジを続ける





02 具体的な取り組み事例

【経済価値】スマート・オペレーションの展開



スマート・オペレーション体制を確立し、時代やニーズにあわせて常に進化させ続けていく

スマート・オペレーションによる提供価値拡大に向けた取り組み

従来のオペレーション



スマート・オペレーション



スマート・オペレーション体制の確立により想定される効果

- 全台オンライン化に伴うデータ活用による売上の最大化
- 業務効率化とともに、働き方の多様化を推進
- オペレーション、事前ピッキング作業の最適化に向けた継続的な改善

当社オペレーション担当者 1人あたり売上高を2026年度までに20%アップ[※]（2021年度比）

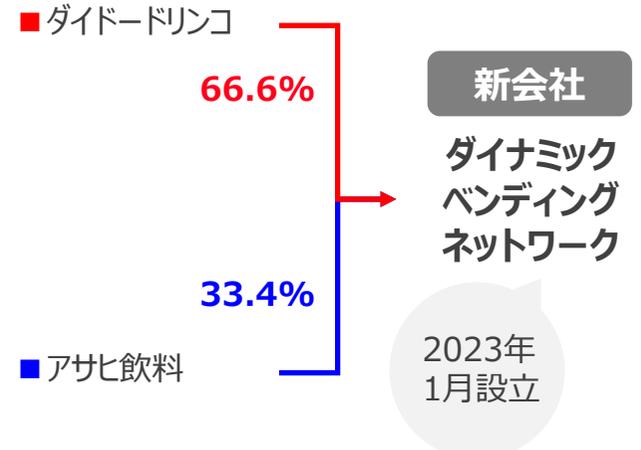
手順の改善と
全社への周知

「ムリ・ムダ・ムラ」
のない作業の
平準化

監督者による
課題の取り上げ
改善

手順書に基づく
正しい作業
手順の浸透

アサヒ飲料との業務提携でスケールメリットを拡大させていく



- 新会社設立により、直販事業の一体的運営を推進する
- ダイダーのスマート・オペレーションを展開し、オペレーションスピードと品質管理能力、生産性を向上する
- 将来的な人手不足、雇用確保という課題を解決する

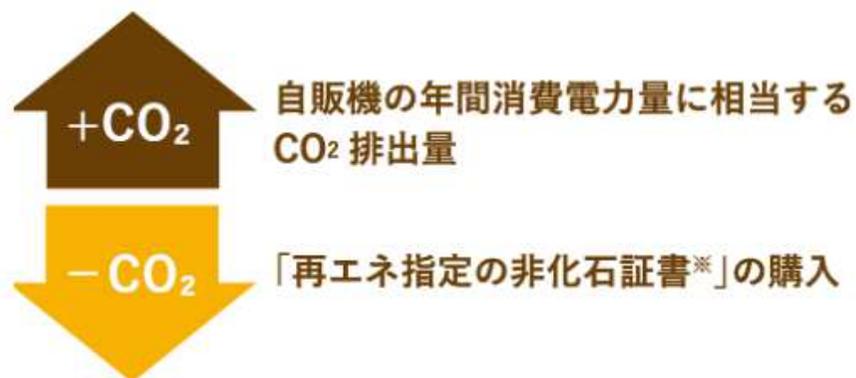
【環境価値】LOVE the EARTHベンダー



お客様と共にサステナブルな未来を創るLOVE the EARTHベンダーの展開



CO2排出量「実質ゼロ」の自販機の展開



自販機設置先オーナー様のご要望にお答えするオプションも用意

- ① カーボンニュートラル証書の発行
- ② 植林プロジェクト
- ③ アルミボトル缶ラインアップ

※非化石証書とは
非化石電源（太陽光・風力・水力・地熱・バイオマス等の再生可能エネルギー）で発電された電気環境価値（非化石価値）分を証書化し売買可能にしたもの（主管官庁 経済産業省の制度として2018年5月～制度開始）

【社会価値】社会貢献活動を推進



社会からのニーズに応じ各グループ子会社で取り組みを実施

自販機を使った地域密着型の社会貢献活動

自販機の売上の一部が、支援団体等を通じて活用される「社会貢献型自販機」の設置を推進。



フードロス問題に向けた取り組み

フードロス問題への取り組みとして、たらみで発生する廃棄果肉を再利用した「わけあり品ゼリー」を通販限定で販売



「みかんゼリー わけあり品」 通販限定品のため、ケース販売

カップのフタ材は無地フィルムを採用することで、蓋への商品名印刷時に発生するCO₂や塗料を削減！

未来のためのマテリアリティ



2022年12月17日

SDGパートナーズ株式会社 代表取締役CEO 田瀬和夫

そもそも人類の理想を語るSDGsになぜ企業が取り組むのか？

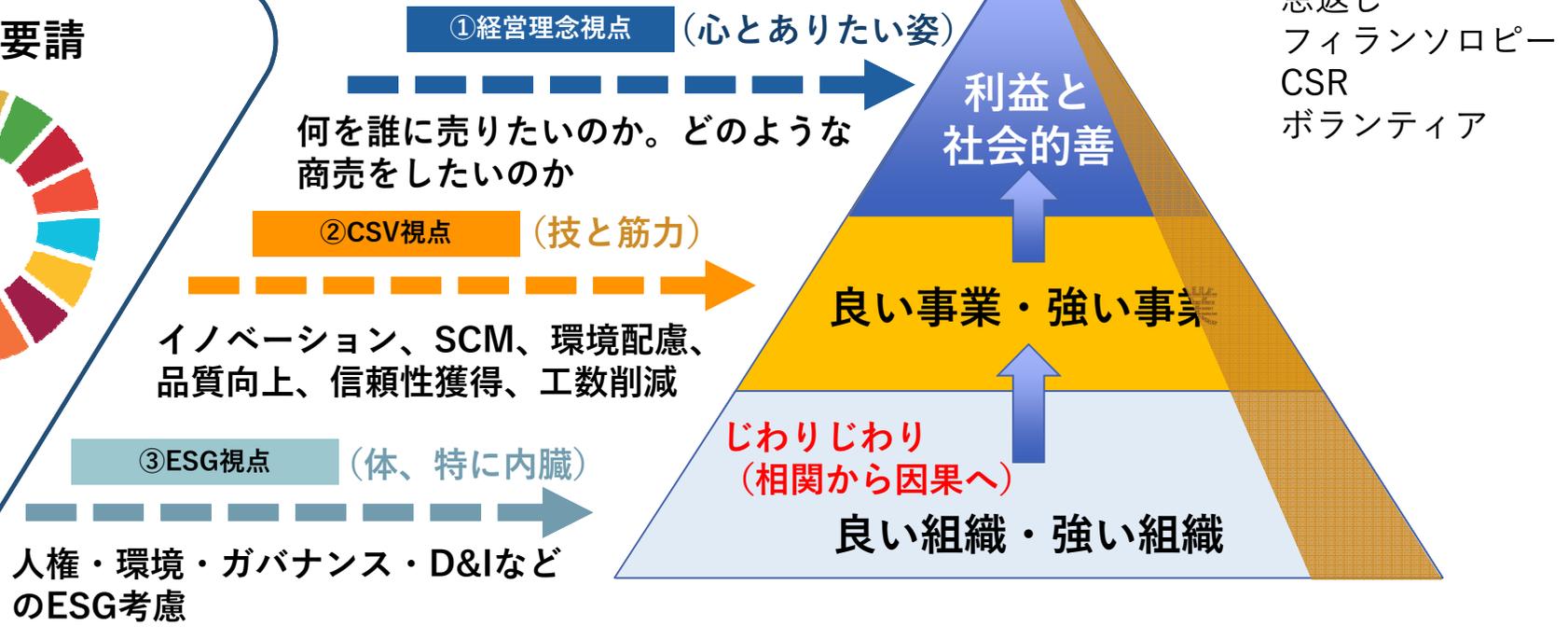
大義

企業は継続的に金を稼ぎ利益を得ながら
社会に善をなすべきであるから
＝「きれいごとで勝つ」

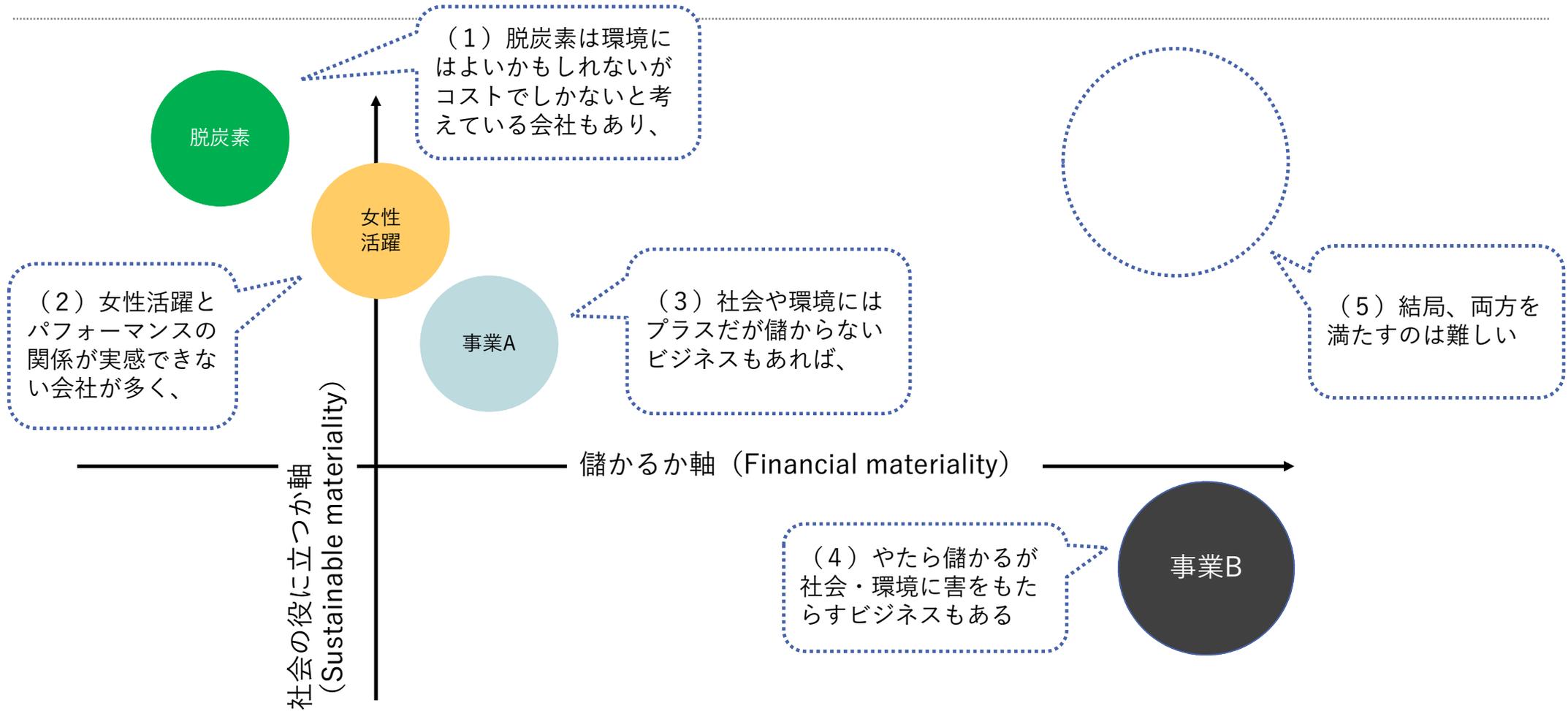
経営理念（心）、事業（技）、組織（体）において持続可能性を考え、それを融合させていくことが「統合思考」と言えるものなのではないか

これら3つを一貫した論理で考えていくことが「統合思考」である

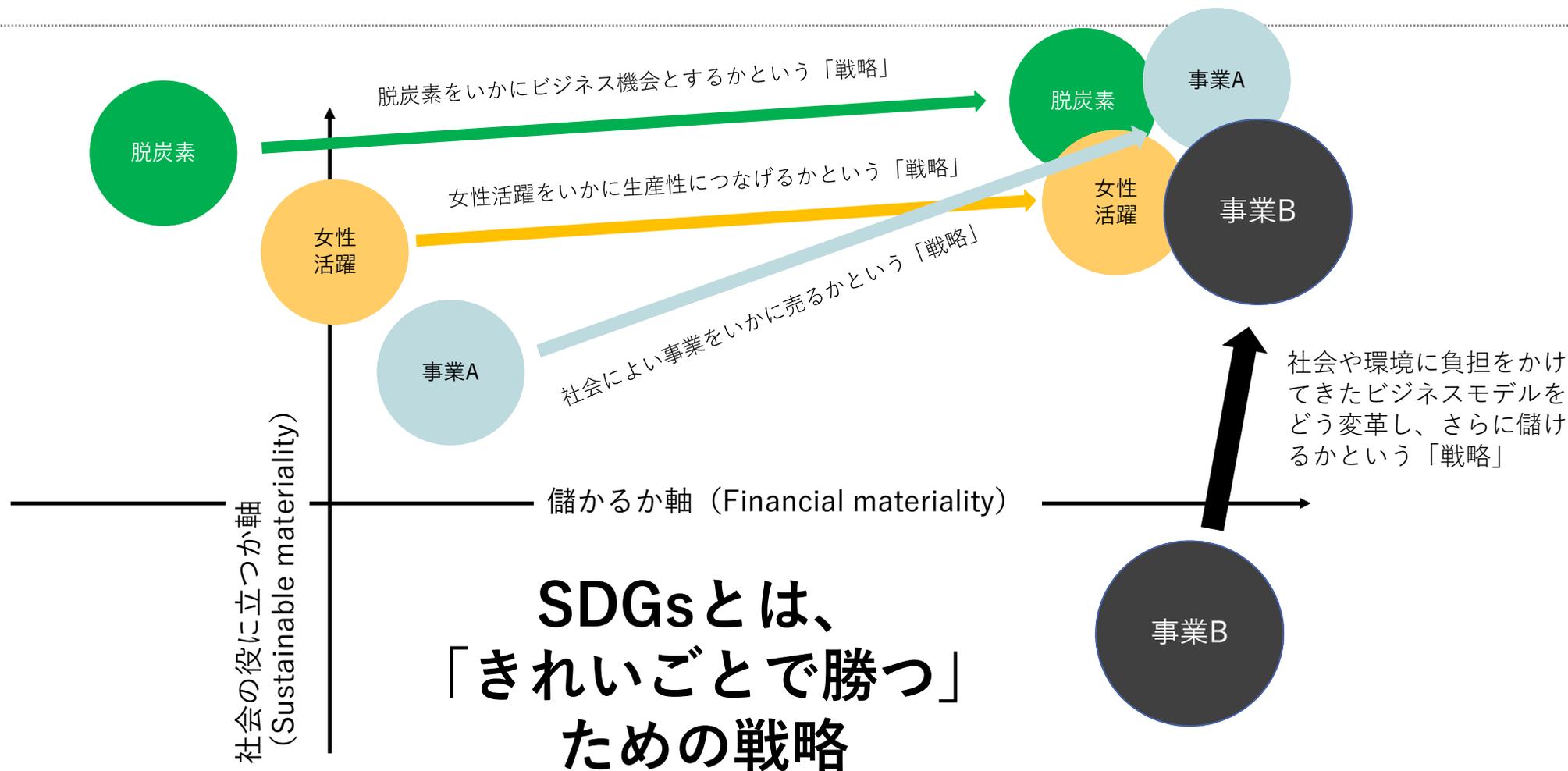
サステナビリティ要請



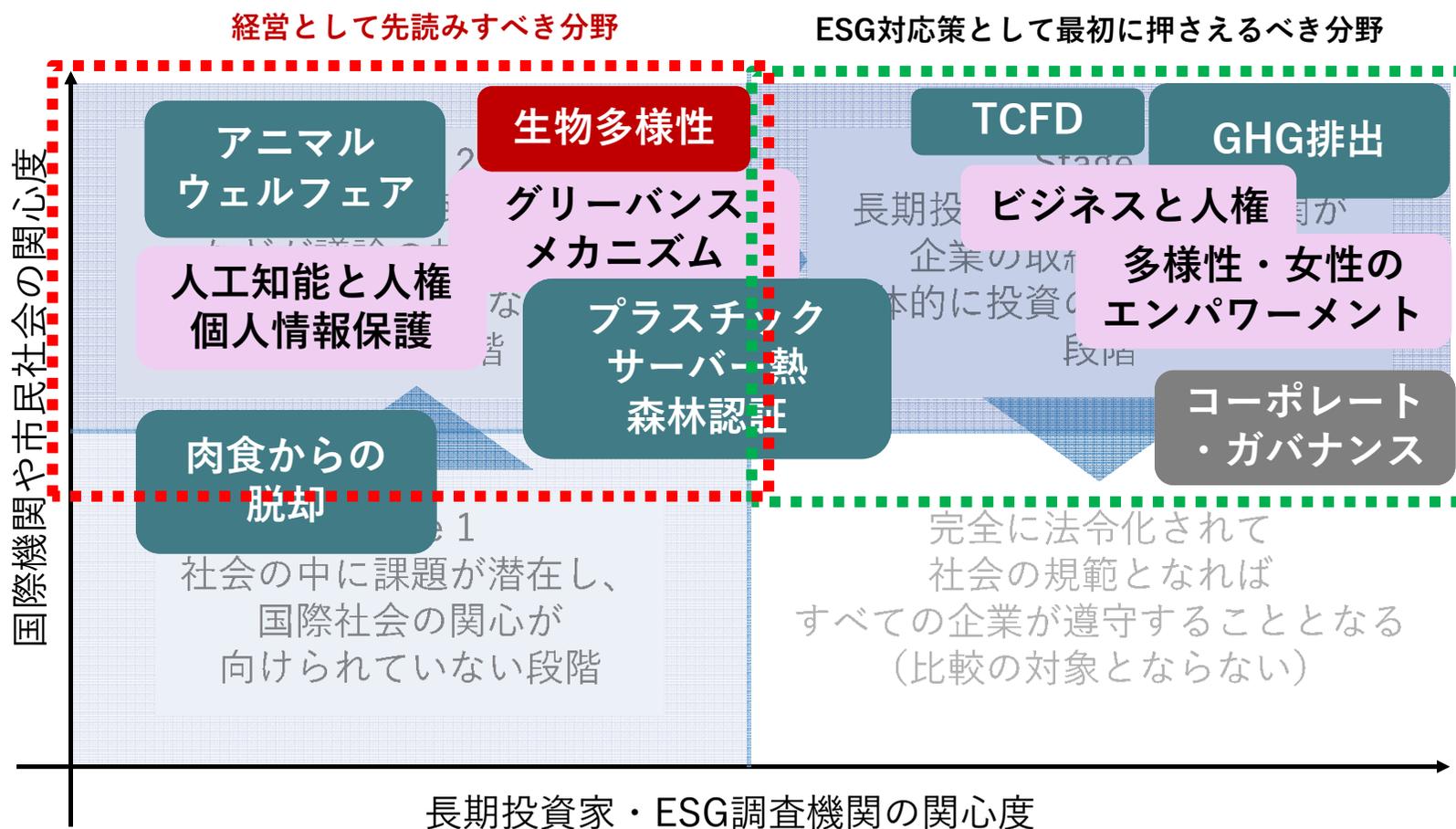
多くの企業が「社会の役に立つことを儲けにできていない状態」



いま主流化しつつあるダブルマテリアリティは 「きれいごとで完璧に勝つ」ための戦略を立案するための枠組み



ESG投資においては多くのサステナビリティ分野で取り組みが進む。
一方、これらが一つの世界を目指していることは知られていない



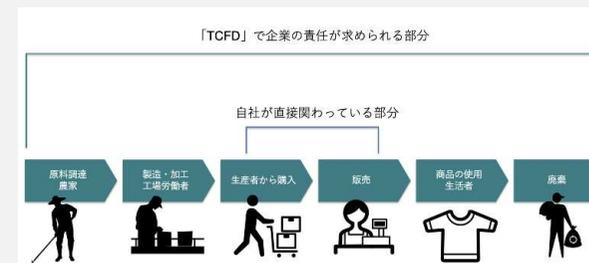
ESG投資の主要トピックである「人権」「気候変動」「生物多様性」において明確な相似形（similarity）が観察できる

2022年生物多様性に関するTNFD



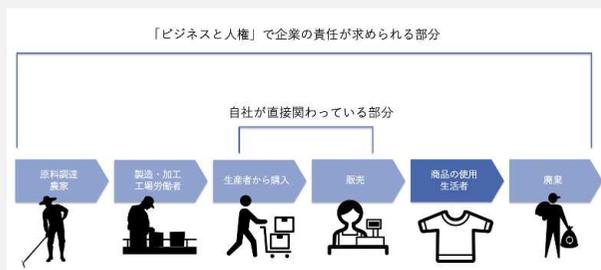
自社が生物を殺していないとしても、サプライチェーンでの生物多様性損失が自社の責任に

2017年気候変動とTCFD



自社が二酸化炭素を排出しなくとも、サプライチェーンでの排出が自社の責任となる

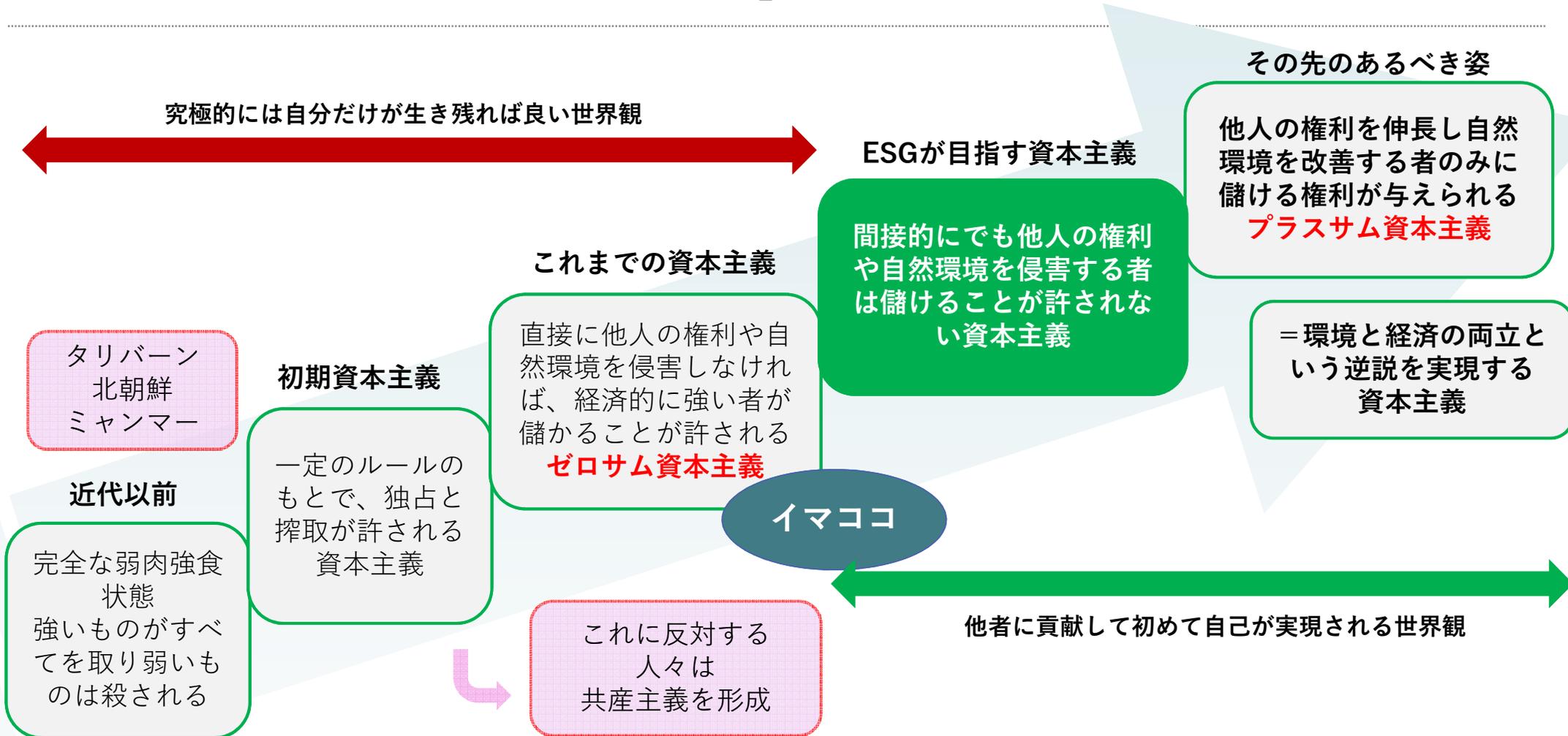
2011年ビジネスと人権



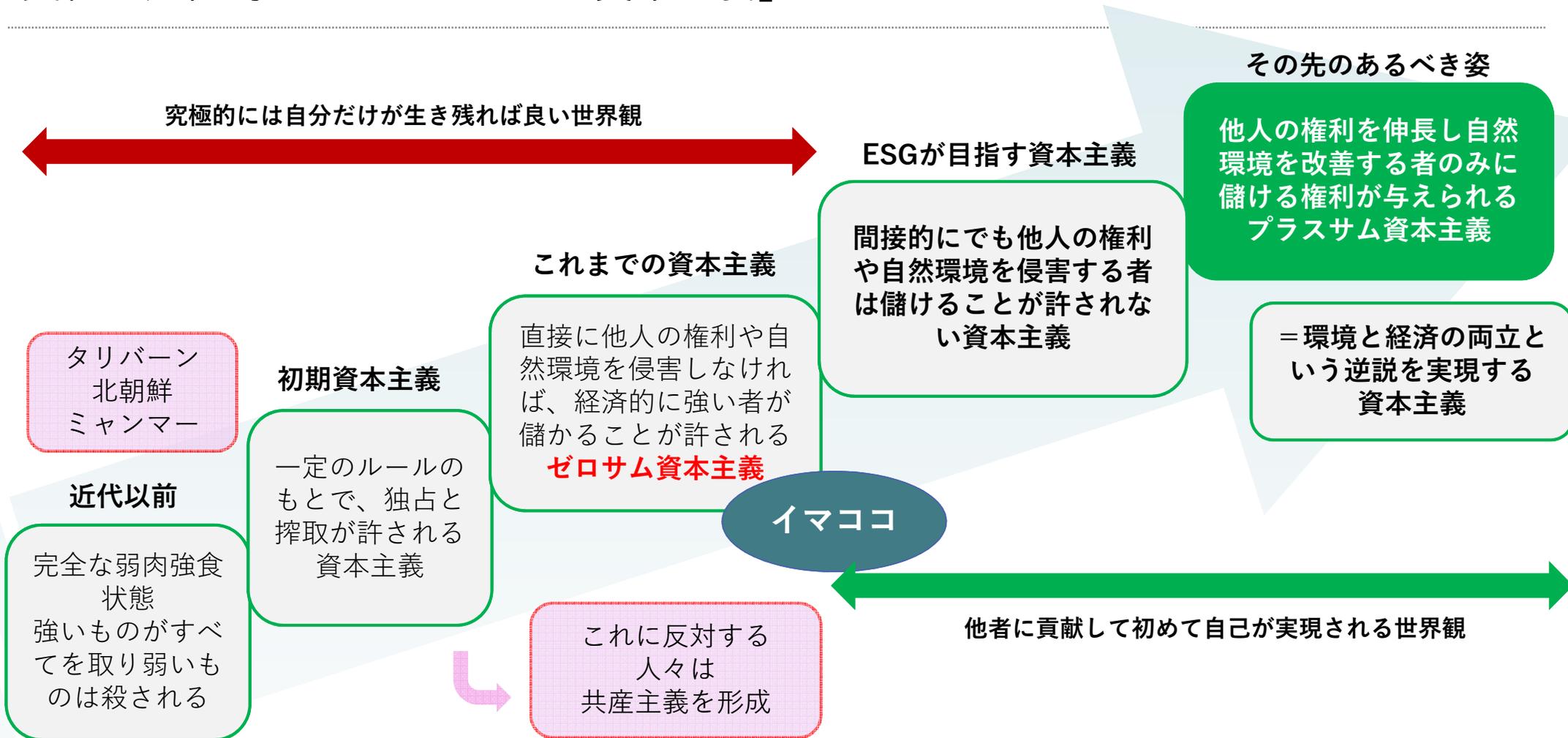
自社が人権侵害せずとも、サプライチェーンでの人権侵害が自社の責任となる

これら3つのトピックは、サプライチェーン全体に対して企業の責任が発生するという点で完全に相似形（similarity）をなす

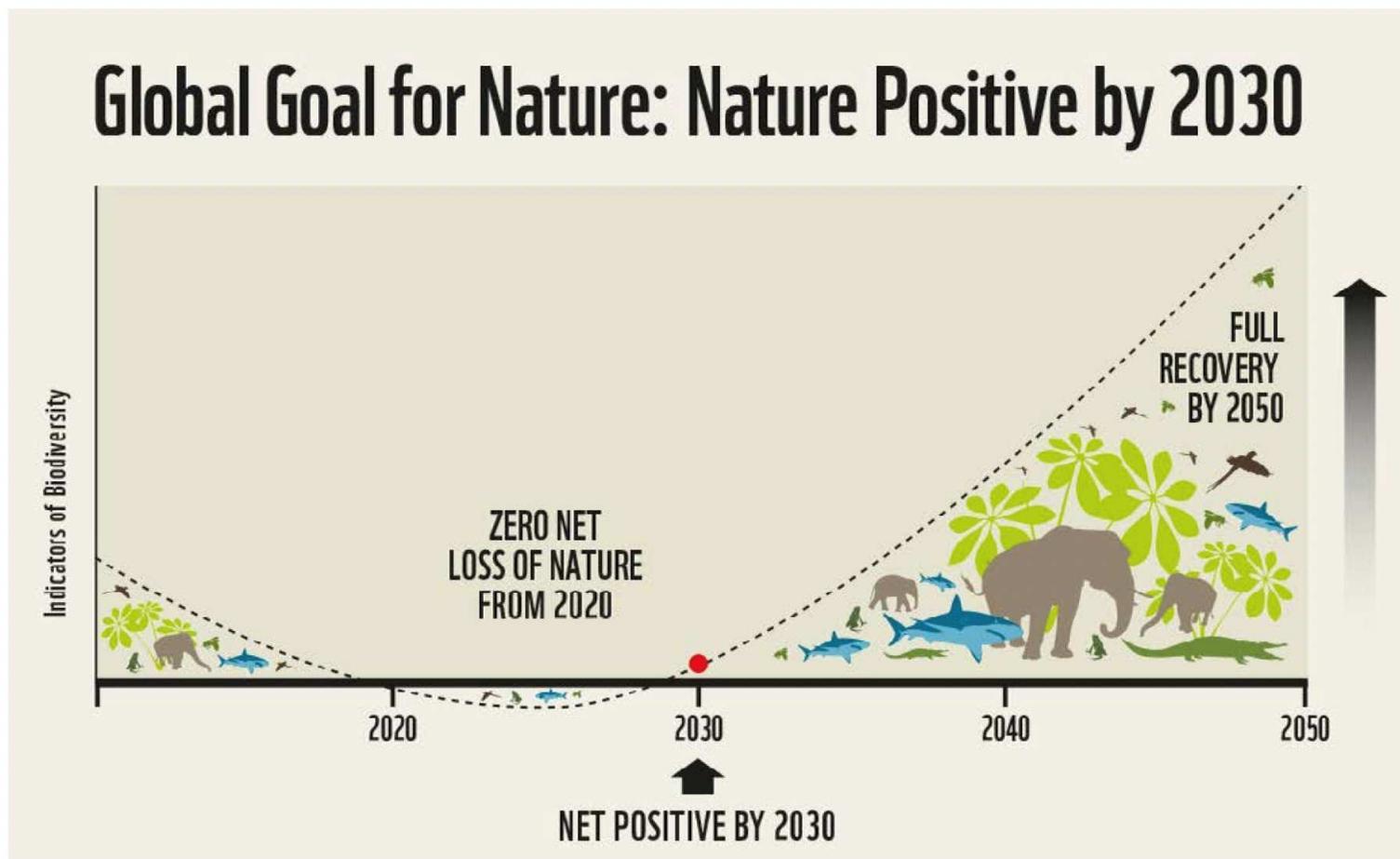
人類の発展に従って資本主義も進化。ESG投資が目指す変化は究極的には「プラスサム資本主義」に到達する



人類の発展に従って資本主義も進化。ESG投資が目指す変化は究極的には「プラスサム資本主義」に到達する



Nature Positiveにおいては2030年までに自然資産の増加を実現しながら経済を成長させることを目指している



WBSCD: What does Nature Positive mean for Business

最終的に日本企業が目指す
「六方よし」経営である



近江商人の「三方よし」経営

売り手よし

作り手よし

買い手よし

地球よし

世間よし

未来よし

ダイドーグループのマテリアリティは、プラスサム、六方よしの経営を実現する基盤となりうるものである

